

らるゝは、殆んど慣例の如し。又喀喇沙爾汗王の如きも、四十歳以上の壽を保ちし者稀なりと云ふ。二十世紀の今日に於て、斯の如き忌むべき蠻風惡俗の、殊に僧侶の社會に行はるゝ有らんとは、實に驚歎に堪へざるなり。然れども翻て彼等が天國と仰ぎ、樂園と信ずる西藏國の風儀は如何、一婦多夫を常とせるに非らずや。彼等が護法の王と尊み、活佛と敬する達賴喇嘛は、世々何故か天折するに非らずや。之を思へば、彼等に惡風非儀の行はるゝは、敢て怪むに足らざるなり。

活佛

喇嘛僧の中に「ケーゲン」即ち活佛と名づくるもの有り。是れ大喇嘛の指命する一人の小兒にして、一般喇嘛教徒の之に歸依すること甚し。されば「ケーゲン」の欲する所は、之を信徒に要求し、信徒は其要求の是非曲直を論せずして、一意其の命に盲從するの狀態なり。

索倫人の
勇武と
伯武人の
惰懶

滿人中の一種族たる索倫人は、由來勇武の氣象に富む。男子は老若と無く暇あれば則ち射御狩獵、以て武を練るの風あり。爲めに彼等の部落には、盜賊も尙ほ且つ恐れて侵入すること無し。偶、之れ有る時は、近所合壁、其れより其れへと傳へ遂に全村擧て各、武器を提げて起ち嚴密に搜索して捕拿せずんば止まず。既に之を